

つちおと

復興庁

Reconstruction Agency

令和2年12月21日発行
宮城復興局気仙沼支所

気仙沼市笹が陣3-5
気仙沼市シルバー人材センター内

第82号

唐桑小原木

(仮)唐桑南

(仮)気仙沼北

2020年度内
開通予定

(仮)大島

気仙沼港

気仙沼中央

岩井崎

大谷海岸

本吉PA

本吉津谷

今回開通区間

小泉海岸

歌津北

歌津

南三陸
海岸

志津川

三滝堂

登米
東和

登米

桃生津山

桃生豊里

三陸沿岸道路「小泉海岸IC ～本吉津谷IC」が開通

11月21日、三陸沿岸道路の「小泉海岸IC～本吉津谷IC」間が開通しました。開通式典には、住民代表の地元中学生や菅原気仙沼市長、佐藤南三陸町長など関係者約60名が出席し、東日本大震災からの復興を加速させる開通を祝いました。この開通により、三陸沿岸道路の起点である仙台港北ICから気仙沼港ICまでが直結し、約1時間20分で往来が可能となります。

今回、気仙沼市内の中心部から仙台市までが一本の高規格道路で結ばれたことから、物流の効率化や沿岸地域を巡る広域周遊観光のさらなる促進が期待されます。また、同道路は高さのある盛土構造を主体に建設されていることから、災害時の交通ネットワーク確保、緊急輸送路としての機能強化も図られているところです。

これで三陸沿岸道路全体では延長359kmのうち8割(290km)が開通したこととなり、宮城県内では未開通の気仙沼湾横断橋を含む「気仙沼港IC～唐桑南IC(仮称)」間(7.3km)は、令和2年度内に開通の見通しとなっています。

- フルインターチェンジ
- ハーフインターチェンジ
- 2車線・追越車線設定区間(本稿作成時)



関係者に見守れながら行われた通り初め

みやぎ復興官民連携フォーラム開催

～ 10年目の今、復興をきっかけに生まれた「連携」の姿とその将来像を考える ～

東日本大震災から10年の節目を迎え、震災後の復興に向けた取組の中で生まれた数多くの「連携」を未来につなげるため、分野ごとの先導的な取組に焦点を当て、現在進行形の復興や今後の災害対応に活かせるノウハウ等を共有し、将来像を考えるイベント「みやぎ復興官民連携フォーラム」が仙台市内で開催されました。当日は新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、会場への参加者を絞り、オンライン（Zoom）による中継を併用する形で実施されました。

冒頭の基調講演には原東北大学理事・副学長がご登壇され、震災後に東北大学が取り組んできた復興支援活動を通して見えてきた地域連携の意義等について講演されました。原先生の講演からは、東北大学が東日本大震災からの復興で培った経験や知見を活かし、ポストコロナ時代の安心・安全で豊かな社会構築に貢献して行くという強い使命感を感じました。

その後は分野別の3分科会に分かれ、グループワークが実施されました。



東北大学 理事・副学長
原 信義氏による基調講演

1つ目の被災者支援分野では、地域の広域支援団体のネットワークである「みやぎ広域支援団体連携担当者会議（通称：みこし連）」メンバーが「広域支援団体連携推進」をテーマに協議を行いました。同みこし連は発足以来60回以上の協議を重ね、メンバー（団体）間の信頼関係の構築、価値観の共有等がなされ、来るべき災害に備え県域の災害ボランティアセンターの協力体制を検討するに至ったこと、ただ事業を団体に委託するだけでは構築できなかった関係性が何よりの成果、といった意見交換がなされました。



被災者支援分野「広域支援団体連携推進
について」をテーマとしたグループワーク

2つ目のまちづくり分野では「持続可能な防災まちづくり」をテーマに、この10年で何が生まれ何ができたか、持続可能にしていくための工夫について議論が行われました。参加した3地区における課題、ニーズ、対応、解決等のノウハウは三者三様であるが、情報収集、共通認識、立案、合意形成のノウハウに重要なことは、「丁寧なコミュニケーション」に尽きるなど、活発な意見交換がなされました。



まちづくり分野「持続可能な防災まち
づくり」をテーマとしたグループワーク

3つ目の産業復興支援分野では「パートナーシップによる産業の創造的復興に向けて」をテーマに、最前線で活躍されている方々によりパネルディスカッションが行われました。被災地のホテル及び企業・水産業・地域産業の各支援分野における取組紹介、この10年でどのような連携・つながりがあったか、各取組の未来などについて議論が展開されました。そして、関わった人々が自発的に作り上げていった「志を持った連携」「コーディネート」が何より重要であり、それは被災した地域や産業経済を何とかしないといけないという使命感から生まれたものだった、といった意見集約がなされました。



産業支援分野「パートナーシップによる産業の創造的復興に向けて」をテーマとしたパネルディスカッション

3分科会ともに活発な意見交換がなされたほか、会場内には宮城県内各地の復興状況や被災者支援の取組例などが約50枚のパネルとして展示され、来場者は熱心に内容を確認していました。



パネル展示の状況

当日はイベント会場に80名超の参加、オンラインでは100名超の申し込みがあり、盛況に開催されるとともに、これからの復興や来るべき災害対応に活かせるノウハウ等も共有され、参加者にとって大変有意義な一日となりました。



フォーラムにおける、講演資料、各分野資料、当日の動画情報は、
下記URLより参照できます。ご覧ください。

「新しい東北」官民連携推進協議会特設ページ ⇒ 宮城県イベント
https://www.newtohoku.org/event_10th/miyagi.html



復興・創生インターンシップ事業

<http://jnsa.reconstruction.go.jp/inter/>

WEB エントリー
はこちらから



一部の端末で「この機能ではプライバシーが保護されません」と表示される場合があります。その場合(表示する)をクリック(タップ)するか、(iPhone)「設定(システム)」までお電話がメールでご連絡ください。

復興庁では、東日本大震災で被害を受けた岩手、宮城、福島県の企業において「復興・創生インターン」を実施しています。学生にとっては、被災地企業が抱えている経営課題に対し経営者と協働して解決に取り組むことにより、復興への貢献ができ、かつ自らの成長が図れるものであり、企業にとっては学生とともに経営改善に取り組むことにより人材獲得力や育成力の向上を図ることを目的としているものです。今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のためオンラインでの開催となっています。12月2日、夏期インターンシッププロジェクトの成果報告会がオンラインで開催され、参加学生を代表して4つのプロジェクトに参加した学生それぞれ2名～4名が成果発表しました。充実した活動の様子がうかがえ、受入れ企業から労いの言葉をいただきました。ただいま、2021年春期参加学生募集中です。

成果発表会での共有イメージ



2021年春 オンライン開催 復興・創生インターン 参加学生募集!!

どこにいても思いはつながる！
あなたの「想像力」で東北に「創造力」を！

観光・まちづくり 広報企画 商品開発 地域活性
新事業開発 マーケティング 福祉・保育 農林・水産



【2017年度から2020年度前半】のべ参加企業470社、のべ参加学生1,018名

被災地企業・団体の経営課題に対し、経営者と力を合わせ、課題解決プロジェクトに挑戦する「実践型インターンシップ」です。

東北の被災地の抱える課題に向けて
オンラインで
挑戦しよう!!

過去3年間
インターン生の

94%

以上が

「自分の成長に繋がった」と回答!!

◆支所長コラム

令和2年、年の瀬も押し迫り、残すところあと数日となりました。皆様には、年間を通じて「つちおと」のご愛読をいただき誠にありがとうございます。この1年を振り返りますと、年明けから影響が開始した新型コロナウイルス感染症により、気仙沼地域でも待ち望まれていた各種イベントや式典等が軒並み中止、延期となり、この「つちおと」での情報発信も苦慮したところでした。その様な中、被災地域では感染の影響を踏まえつつ、大島ウエルカムターミナル、内湾商業施設のオープンや、南気仙沼土地区画整理事業竣工、南三陸町震災復興祈念公園全面開園、三陸沿岸道路歌津本吉道路の開通など、着実に復興の進捗が目に見える年であったと思い起こされます。震災発生から10年目を迎える節目の年でもあり、コロナに負けないよう感染予防を徹底し引き続き復興の完遂に向け取り組んで参りたいと思います。

話はかわり、年末の大掃除は行いましたでしょうか。掃除という言葉が日本で使われるようになったのは平安時代とのことで、大掃除もその頃から始まったと言われています。大掃除は一年の煤(すす)をはらい新年に神様を迎える準備をするという意味があるそうで、「すす払い」と言われていました。やはり年末、特に今年はコロナという「すす」を払い、普段より丁寧に掃除をして、気持ちよく新しい年を迎えるのもいいかもしれません。皆様もよいお年をお迎えください。(高信)

これまでに発行した「つちおと」は、復興庁ホームページで御覧いただくことができます。

⇒ <https://www.reconstruction.go.jp/topics/main-cat6/sub-cat6-1/001177.html>

【編集後記】今年は猛暑でしたが、寒さも初っぱなから厳しく始まりました。このような中でも工事を続けてこられた現場の方々のおかげで復興がここまで進んだのだと認識を新たに致しました。

「つちおと」発行元(お問い合わせ先)

復興庁 宮城復興局 気仙沼支所

電話:0226-23-5301, FAX:0226-23-5310

